

私の一冊「社会福祉研究の課題と方法」

著者	徳田 克己
著者別名	Tokuda Katsumi
雑誌名	つくばね : 筑波大学図書館報
巻	27
号	2通104
ページ	8
発行年	2001-09-28
URL	http://hdl.handle.net/2241/10428

徳田 克己

「社会福祉研究の課題と方法」

佐藤泰正・徳田克己編著（田研出版）

[中央 369.07-Sa85]



社会福祉に関する世の中の関心はますます深くなっている。それはどの学問の領域でも同じであり、福祉的な視点のない研究は「時代遅れ」と評されるようになってきている。学問の目的のひとつは、人類の幸福を求めることにあり、その意味では高齢者や障害者のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上を直接目標にした「福祉学」は「哲学」とともに学問の中心に据えられなくてはならないものかもしれない。

社会福祉研究は「科学」ではないと言われてきた。それはこれまで出版されてきた多くの本の書名や大学等での授業名が「社会福祉論」であって、「社会福祉学」ではなかったことからもうかがわれる。

筑波大学には福祉学に関する研究をしている専門家が大量にいる。医学、教育学、社会学、心理学、工学、障害学、体育学、看護学、法律学、経済学などの分野はもちろんのこと、農学、芸術学、国際学、文学、歴史学など従来は関係がそれほど深くないと思われていた分野においても、福祉に関わる研究が行われてきている。

例えば、福祉工学という分野がある。従来この分野の研究者は工学系の研究者の中でも「変わった研究者」の手がけるテーマであった。しかし現在は、土木、都市工学、機械工学などでは確たる存在感を示す領域となっており、多くの、変わり

者も変わっていない者も手がけるテーマになってきている。しかし、福祉をちょっとかじっただけの工学研究者は、時には「とんちんかんな福祉機器や福祉施設」を世に送り出してしまうことになる。福祉の基礎的な勉強、特に高齢者や障害者などの福祉対象者の現実的なニーズに関する勉強が足りないのである。

本書は短期大学や大学で福祉を勉強し、社会福祉に関わる卒業論文を書こうとする人たちのために書いた「研究の手引書」である。児童福祉（保育、要保護、障害児）、視覚障害福祉、聴覚障害福祉、肢体不自由者の福祉、知的障害福祉、精神障害福祉、老人福祉、家族支援、地域福祉、ボランティア、バリアフリー、福祉工学、国際福祉、家族福祉、社会福祉援助技術、医療福祉、福祉の歴史、福祉の法律・制度、福祉教育のそれぞれの領域を取り上げてある。これらの社会福祉の領域で、現在何が課題になっており、それを解決するにはどのような方法論が用いられるか、基本的な参考文献にはどのようなものがあるのかなどについて案内してある。

学生だけではなく、他の分野の研究者で、福祉的なテーマで研究を始めようとする人たちにも読んでもらいたい。そうすれば、「とんちんかんな福祉機器や福祉施設」はもっとずっと減っていくであろうし、どこでもここでも「段差」がないのがバリアフリーであるなどといった誤解が少なくなっていくであろう。

高齢者や障害者や子どもたちに、ただ優しく接すること、望みをかなえるように周囲が努力することだけが「福祉的かわり」ではない。「おもいやり」や「障害者のニーズ」を「侵してはならない根本原理」として考えてしまうことは、福祉を中途半端に勉強した人が陥る落とし穴である。本書では、福祉対象者をとらえる目を適正にもってもらうように記述したつもりである。本書を通して、適正な高齢者理解、障害理解、福祉の理解が進むことを願っている。

（とくだ・かつみ 心身障害学系助教授）